

アーツセラピー研究沿革

2008～2011 年

甲南大学人間科学研究所（KIHS）：パイロット調査

2008 年、KIHS の共同研究プロジェクトのひとつとして、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「芸術と芸術療法の共有基盤確立に向けた学際的研究」が立ち上がる。その一環として、アーツセラピーの実際を知るためにアーツセラピストに対するアンケートおよびインタビュー調査を実施した。

調査報告書「アートセラピーの現状と課題：アンケートとインタビューから」（甲南大学人間科学研究所 2012 年 2 月）を参照のこと。

<https://www.konan-u.ac.jp/kihs/publishing/report/>

2012～2014 年

ATAS- I：全国実態調査

[JSPS 科学研究費・挑戦的萌芽研究 24653153、2012-14 年度、研究代表者・兼子一]

甲南大学人間科学研究所のパイロット調査の成果を受けて、日常に根ざすアーツセラピーを「市井のアートセラピー」と名付け、全国規模で調査を実施した。治療を目的とするアーツセラピーと支援を目的とするアーツセラピーのアプローチおよび展開の仕方が大きく異なること、また市井のアーツセラピーがもつ課題を明らかにした。

2015～2017 年

ATAS- II：エンパワメント型アーツセラピーの社会的位置づけと評価方法の開発

[JSPS 科学研究費・挑戦的萌芽研究 15K13105、2015-17 年度、研究代表者・兼子一]

第Ⅰ期の「アートセラピー全国実態調査」によって把握された市井のアーツセラピーが安定して展開するためには、この活動が正しく認知・理解され、しかるべき社会的位置を得ること、活動としての質を高めるための手段や評価方法の確立が求められる。

第Ⅱ期では、いかに実態に即し実践に役立ちうるかを最優先にして、実践家（調査協力者）らと協働しながら、この課題に取り組んだ。

2018 年～

ATAS-Ⅲ：第Ⅱ期課題の継続ならびにアートエンパワメント全体への視野の拡充

第Ⅱ期で取り組んだ、アーツセラピーの分類の改訂・評価方法の伝播および実践的研究を継続して進めるとともに、エンパワメント要素のあるアート活動も視野に入れて、アート／エンパワメント／セラピーを横断的に論じ、各活動の展開に寄与する。